

# キャンペーン 2000 バンコク会議 報告

2000年12月11日～15日

会場：国連国際会議場

1. 主催：タイ障害者福祉協議会  
国連エスキャップ（国連アジア太平洋経済社会委員会）
2. 参加人数：海外 505 名（30 の国と地域）、タイ国内 397 名、他にボランティアなどを含めて約 1,000 名。そのうち日本からは 162 名。
3. テーマ：「障害者の社会参加推進を目指しバリアーを破る！」
4. プログラム
  - (1) RNN 総会（12 月 11 日、参加団体  
主な議題—RNN 代表の交代（マレーシア、オオイさんからタイナロンさんへ）  
—各国団体より活動報告  
—キャンペーン 2001 ハノイ会議準備報告  
（ベトナム MOLISA：労働・戦傷者・福祉省副大臣より）  
—キャンペーン 2002 最終年大阪会議準備報告  
（リハビリテーション協会国際部長河村宏より）
  - (2) キャンペーン 2000 バンコク会議開会式（12 日）  
ソムサワリ皇太子妃殿下が開会宣言。  
あいさつは、タイ組織委員会委員長ソンボン氏、タイ来賓、RNN 事務局長丸山一郎氏など。  
ソムサワリ妃殿下は開会宣言のあと会場一階での展示の開会に移動。その間会場ではエスキャップ作成の「十年」に関するビデオを上映。
  - (3) 全体会（12 日午後）  
講演者：八代英太前郵政大臣、デンプーフアン中国残疾人協会会長講演代読、ダグラス・クレフティング
  - (4) 歓迎レセプション  
国連国際会議場内 2 階通路を全部使用し、パフォーマンスもあつ

た。

(5) 分科会 (round table discussion : 13 日および 14 日)

内容は、「十年」行動課題の 12 の領域すべてに関する合計 107 の目標についての討議を行い見直し作業が行われた。当事者が各分科会でファシリテーターやスピーカーとして参加した。

(6) 展示 (12 日~14 日)

会議場一階では、アート&クラフト、テクノロジー、団体紹介。2 階のフロアーでは、パネル展示。一階の外では、製品展示即売などが行われた。

主な参加：リハ協からデージー、ダスキン、JANNET など。

RNN から 2002 年パンフレット、「十年」資料、ロゴ製品など。

デージーコンソーシアムではデージーの実演

IBM (日本とタイ合同)

さをり広場 (作品展示と実演)

\*さをり織りは会議場全体を飾った。

(7) 閉会 (14 日)

—各分科会の報告

—決議文の採択

—閉会式では来年キャンペーン会議を開催するベトナムを代表して MOLISA 副大臣と RNN 次期代表となる、Ms. Van に旗の引継が行われた。

(8) 施設見学 (15 日)

5カ所に分かれて、公園などのアクセシビリティ視察、車いす制作工場、バクレッド障害児ホーム、タイグッドウイルインダストリー (作業所) などを半日見学。

5. 特記事項

(1) 最終日に決議文の採択が行われた。全体会で読み上げたのはタイの障害をもつ女性。

(2) 「十年」の 107 の目標に関する recommendation を各分科会で作成することが目的であったので、単なる報告中心の会と違って真剣

な討議が行われた。

- (3) この地域の障害をもつ人が司会、スピーカーとして多く参加した。各分科会では多様な意見が出た。
- (4) エスキャップのファンド（アクセスに関するワークショップ参加者を招待）とエスキャップをとおしての日本政府からの助成金により、この地域の障害当事者が多く参加できた。
- (5) 台湾から5名参加した。国連の会議場に台湾から参加するのは初めてであった。エスキャップは台湾の参加者に対して条件を課したがそれを受け入れ、スピーカーとしてまた、展示にも参加した。
- (6) 北朝鮮から2人が参加した。RI活動にも関心があり、会議場内で意見交換を行った。
- (7) 韓国のリハ協会イル・ムック・チョー会長から、日本・韓国・中国間での交流を推進する提携を結ぶ提案があった。
- (8) ダスキンリーダー研修で昨年来日した第一期生のうち3人が参加し、交流した。

(9) 通訳について

日本からの参加者は積極的に討議に加わったが、同時通訳を提供できたのは最初の2日間のみであったが、会議全期間中の情報保障のため、来年はもっと充実させることを検討したい。

RNN 事務局  
(2001年1月作成)